

市場から世界をみれば

情報システム株式会社 大谷淳一



また、食品製造工場では、多くの工程を経る間に、失敗品ができてしま

うこともある。成分が規定に満たないもの、内容量が不足しているものなどであるが、そのような失敗品は「捨てるにも金がかかるし、もったいない」ので、工場の中で再利用してしまつてい

は回答が出ないことが多
いが、メーカーが「調査
中」というコメントを出
す裏では、せつせと手書
きの伝票や日報を見て、
分析しているのである。
この程度が現在のトレー
サビリティの限界であ
るといえる。

さらに、遺伝子組み換
え食品についても、表示
にはあいまいさが残され
ている。買い物客の中
には、「遺伝子組み換えで
ない」という表示を確認
して購入する人が増えて
きた。彼らは、表示のあ
る食品は「国や公的機関
で検査・審査がされた安
全な食品だ」と考えてい
る。だが、その表示の内
実まで把握している人は
極めて少ない。

GM(遺伝子組み換え)
作物の代表である大豆を
例に挙げよう。納豆や豆
腐、醤油など大豆原料食
品のラベルを見ると、「原
材料・丸大豆(遺伝子組
み換えでない)」などと
書かれている。しかし、
それを鵜呑みにできるの
であろうか。「遺伝子組
み換えでない」と表示し
てある大豆は、大豆の重
量比で4位なうがい。

第20回「身近になった」遺伝子操作③

例えば、原材料を100種類使用しているAという商品があるとする。製品を作る過程で原材料を使うわけだが、原材料にも賞味期限があるはずだ。ところが、Aが完成した瞬間に、「新たな賞味期限」が発生する。つまり、原材料の1つに賞味期限が今日のものがあったとしても、表示されるのはAが作られた時点からの賞味期限になつてしまうのである。これは賞味期限が先送りされ

る。認めたくないことだが、数ある食品製造工場の中には、残念ながら「普通」になつていくところも存在するのだ。

こうしたことを繰り返しながら製品が出来上がるのは、世間で言う「厳密な意味でのトレーサビリティ(生産から流通・販売までの履歴を記録すること)などとは絵空事である。食品にかかわる事件や偽装が起きると、製造元や原材料に関してすぐに

GM(遺伝子組み換え)作物の代表である大豆を例に挙げよう。納豆や豆腐、醤油など大豆原料食品のラベルを見ると、「原材料・丸大豆(遺伝子組み換えでない)」などと書かれている。しかし、それを鵜呑みにできるの

ない。

偽装が起きると、製造元や原材料に関してすぐに

GM(遺伝子組み換え)作物の代表である大豆を例に挙げよう。納豆や豆腐、醤油など大豆原料食品のラベルを見ると、「原材料・丸大豆(遺伝子組み換えでない)」などと書かれている。しかし、それを鵜呑みにできるの

GM(遺伝子組み換え)作物の代表である大豆を例に挙げよう。納豆や豆腐、醤油など大豆原料食品のラベルを見ると、「原材料・丸大豆(遺伝子組み換えでない)」などと書かれている。しかし、それを鵜呑みにできるの